

第二十二回同窓会大会報告

平成五年十一月開催の第二十一回大会以降、学園及び協会並びに本会が一体となって進めてきた学園創立五十周年記念事業は、十一月三日、「若者の眼が輝く農業・農村づくり」を演題とした山口県(海)船方総合農場代表取締役 坂本多旦氏の記念講演を皮切りに、午後第二十二回同窓会大会、同懇親会、四日は記念式典、記念レセプション、五日の学園祭までの主要行事が催され、絶好の秋日和に恵まれた常陸野に、大会関係者、卒業生、学生及び父兄延べ三千人余が集い、鯉淵学園の活気と波乱に満ちた五十年を振り返り、新たな出発を誓い合いながらの和やかな交流が、三日間にわたり盛大に繰り広げられ、新制農業・生活専門学校【鯉淵学園】の限らない発展を祝福しながらの閉幕となりました。

こうした賑わいの中、第二十二回大会は、予定通り三日午後一時三十分、第三番教室を会場として会員一二四名の出席で開会、会長挨拶に続いて農民教育協会理事長 二瓶 博棟及び学園長 六戸宏明様から、それぞれ、学園五十年の歴史と、これに立脚して、この四月に移行した四年制 農業・生活専門学校【鯉淵学園】の確固たる未来像中心の報告とともに、本会の学園支援活動を始めとした、特に、今回の記念事業取り組みに対する高い評価と期待の祝辞を賜り、本題に進みました。

今大会は、会の命運を懸けた五十周年記念募金運動の成果が問われることから、役員一同、森閑とした思いの召集でありましたが、各位のご支援ご協力により全議案執行部提案通りに承認され、その概要は次の通りであります。



同窓会会報

第58号

平成7年12月15日
発行所 茨城県東茨城郡
内原町鯉淵5965
鯉淵学園同窓会
TEL029-259-2811
TEL029-259-2811
振替口座 宇都宮3-1632番
印刷所 印刷 刷

学園創立五十周年祝賀

秋晴れの常陸野に二千人集う

次期役員

福丸会長ほか再任・

記念事業完成を目指し続投

注目の募金活動は、十月十二日現在の集計報告となりましたが、最低限の目安とした参千万円突破の実績が評価されました。別掲「寄付応募者数及び金額集計表」(十一月十五日現在を)参照ください。役員改選では、会長ほかの再任が決まり、学園五十年史刊行及び会員名簿発行、財政立て直しを目指すことになりました。

【再任された主なる役員】

会長 福丸 博房 埼玉・九期

副会長 高橋 隆三 茨城・九期

副会長兼常任委員長

吉川 昭雄 茨城・十一期

平成八・九年度事業計画で

は、会報の発行、支部組織の強化対策及び学園支援等いわゆる従来活動の積極推進は素より、最重点事業として健全財政の確立、分収林の見直し及び会員名簿の発行があります。

財政の確立は、平成六・七年度からの悲願でもあり、再挑戦の重要項目としてご認識ください。別掲「平成六・七年度会費収入状況報告」、「同決算書」及び「平成八年・九年度予算」をご参照に、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

懸案の分収林対策は、財政逼迫の事情も絡んで十分な管理が出来ない状況から、徹底

見直し論が根強く、平成八・九年度は、長期的育林診断を実施して対処いたします。

会員名簿は、前回発行以来、五年が経過する平成九年を目標に発行作業を進めます。現在、平成九年四月入学の学生用まで備蓄してありますので、発行は、それ以降の七月頃とし、価格は前回とほぼ同額を見込んでおります。

今回も、名簿登録事項確認調査を行いますので、住所表示の明確化及び迅速をモットーにご協力ください。特に、番地必記を徹底いたします。



現在使用中の「宛て名ラベル」に、番地脱落が目立ちますが、記載不備の理由で返戻されるものが、毎回増加しております。気付かれた方は、直ぐ、ご連絡いただければ幸いです。

後は、同窓会館で二次会。十二時過ぎまで激論!の末、翌朝、学生食堂利用の顔触れは、次の面々でした。

平成六・七年度決算書は別表一、同八・九年度予算は別表二の通りです。
大会開会時刻 午後三時三十分。

大会人事

議長 中村 恵一(四期・茨城)
議事録署名人
西村 典夫(四期・学園)
増山 勝(七期・茨城)
書記 坪野 敏美(七期・学園)
大島 武男(九期・茨城)

滋賀① 高田利通
東京② 小口芳昭
神奈川② 北村康祐
三重② 井上義明
(元千葉県在住)
岩手④ 鷹背 武
群馬④ 阿部 功
佐賀④ 小林康則
茨城⑦ 増山 勝
茨城⑦ 岩持文彦
群馬⑦ 関口義明
東京⑦ 山下耕一
愛媛⑩ 岡 一郎
茨城⑩ 吉川昭雄
愛媛⑦ 上甲修三

懇親会

大会終了後休憩を挟んで懇親会場である第五番教室に移動、新たに、学園教職員及び学生自治会役員等を迎え、遠来の小林康則佐賀県支部長(四期)の乾杯で四時開宴、全国各地からの参加とあって賑やかに、和やかな同窓交流の盛り上がりとなりました。

特に今回は、記念行事に合わせた同朋生会が数組あったことから、かつてない盛況のうちに時の流ればかりが早く、瞬く間に終宴の六時です。

鯉淵学園創立五十周年表彰受賞者

おめでとうございます

農林水産大臣感謝状
同
農林水産省農産園芸局長感謝状
同
助農民教育協会会長感謝状
同

財団法人農民教育協会
元副学園長・名誉教授 石橋 幸雄 様
名 誉 教 授 近 秀次 様
元 学 園 長 吉川 直行 様
元 学 園 長 松本 正雄 様
元 同 窓 会 長 小口 芳昭 様
元 同 窓 会 長 和田 文雄 様



鯉淵学園創立五十周年記念第二十二回鯉淵学園同窓会大会を終えて

創立五十周年記念事業の募金活動に 感謝し、さらなる同窓会へのご協力を

同窓会会長 福丸博房

寒中お見舞い申し上げます。
会員の皆さんには、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

鯉淵学園創立五十周年記念第二十二回鯉淵学園同窓会大会を十一月三日開催しましたところ、記念式典参加とあわせて、同期会の集まりをもっていただくなど、全国から数多くの会員のご出席をいただき盛大に挙行することができ感謝しております。

平成六・七年度の主な事業活動を振り返りますと、鯉淵学園創立五十周年記念事業の募金活動の取り組みでありました。会員の皆さんには、出費多端なおり絶大なご協力をいただき、お陰様で三千万円をこえる募金を募ることができました。厚くお礼申し上げます。残念ながら目標達成は出来ませんでした。支部、また期別によっては目標を達成していただき感謝しております。

次に、支部活動については、この募金活動をすすめるために支部総会や同期会等を開催していただき、このことを通じて会員との連携が図られ支部組織の強化につながったものと思います。私ども本

部もその場に出かけて、募金だけでなく会費の納入、学園への協力等をお願いしたところでは、

平成八・九年度の事業計画・予算等については、本部提案どおり満場一致決定していただきました。

その主なものは、
支部組織の強化対策について

会費の納入状況をみますと、どうしても支部組織の強化が必要となっております。毎年度大きな柱として取り組んでいますがまだまだです。特に、若い卒業生会員の方々のご協力を折にお願います。このことが本部の組織強化にもつながるのです。

次に学園への支援活動について
学園もご承知のとおり、平成七年度から全国唯一の農業・生活専門学校(四年制)として運営されているところで、同窓会も学園との共栄理念を基調として、学生募集等についても例年にましてご協力をお願いします。

なお、本部役員については全員留任というところで、大会の承認をいただきました。微力ではありますがその任に当たる

所存でありますので、よろしく申し上げます。今期の事業計画等詳細は別掲のとおりです。
この一月に起きました阪神・淡路大震災で被災されました会員の方々に心からお見舞い申し上げまして挨拶とさせていただきます。



平成8・9年度予算書

(自 平成7年10月1日
至 平成9年9月30日)

1 収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
1 会 費	6,000,000	6,000,000	0	@3,000×2,000名分
2 寄 付 金	100,000	0	100,000	
3 借 入 金	0	0	0	
4 雑 収 入	1,038,000	1,716,000	△ 678,000	名簿代金 (268部)
合 計	7,138,000	7,716,000	△ 578,000	

2 支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
1 会 議 費	810,000	950,000	△ 140,000	総会費・常任委員会費
2 事 務 費	1,540,000	1,636,952	△ 96,952	納通印刷費・窓開封筒代・切手代・雑費
3 事 業 費	3,290,000	3,358,000	△ 68,000	
(1) 会報費	1,690,000	1,758,000	△ 68,000	会報印刷費・封筒代・宛て名ラベル・切手代
(2) 組織強化費	500,000	600,000	△ 100,000	旅費・祝金
(3) 名簿調査費	100,000	0	100,000	所在不明者追跡調査
(4) 行簿移動費	1,000,000	1,000,000	0	事務局長旅費等 年50万円×2カ年分
4 分収林費	500,000	500,000	0	調査管理費
5 負 担 金	970,000	971,048	△ 1,048	返済金・会費 (農大校同窓会全国連盟)
6 予 備 費	28,000	300,000	△ 272,000	
合 計	7,138,000	7,716,000	△ 578,000	

支部・同期の動向

会報第五十七号報告以降実施され、通知をうけた支部総会は、岩手、山梨の二県です。今期間は、大会びに記念行事の準備に忙殺されて対応不十分にも係わらず、各支部及び同期会の活動は目まぐるしく、大会、記念関連行事大盛況の原動力として評価できます。

支部では、関東近県は別格として、前二県のほか宮城県を始め、遠来の沖縄、熊本、山口及び愛媛の各県からの団体参加と、近畿二府四県支部が企画実施した「近畿のつどい」が特筆されます。

同期生会の開催は、グループ会合も含めて四、五、九、十七、二十、二十一、二十二及び二十五の八期組が、二日から五日にかけて集結、旧交を温めるとともに、学園五十周年祝賀交流の輪をグリーンと盛り上げました。

会議概要として、◆開催年月日、◆会場又は開催地、◆代表者、◆出席者又は出席人数、◆会議内容の順に記載します。○数字は卒期、括弧同は通信卒期。

岩手県支部総会

◆平成七年十月十四日(土)～十五日
◆久慈市侍浜町字向町七ー一三三ー五
◆国民宿舎「北限閣」

◆支部長 高橋 利清⑨
◆会議内容 役員留任、五十周年記念行事には、団体に参加することを決める。

◆岩手県支部の団体参加は次の各位が貸切バスで来園、在校生共々県人会を開く等レセプション会場を盛り上げ、五十周年記念に相応しい交流の広がり、大きな役割を果たしました。
夜は、茨交大洗ビーチンにおいて懇親会。翌朝、十一階展望風呂から、絶景のご来迎を満喫、学園訪問の大記念

として脳裏深く焼き付け、常陸野を後にした。

◆参加者(別途行動者を含む)

- ③佐藤 節夫 ④鷹野 武
- ⑤小川 昭伍 ⑤杉本 文午
- ⑦鈴木 実 ⑨小野寺芳男
- ⑨高橋 利清 ⑨阿部 豊
- ⑨及川 敬士 ⑪菅原 昭一
- ⑪齊藤 裕夫 ⑬吉田 孝市
- ⑬齊藤 和子 ⑮久慈 宗悦
- ⑮島津秀三郎 ⑰加藤 勝信
- ⑰千田 由春 ⑲菅原 彰
- ⑲伊藤 稔

山梨県支部総会

- ◆平成七年十月二十一日(土)
- ◆甲府市 塩部三六二一〇
- KKRニュー美容
- ◆支部長 小林 正巳⑤
- ◆出席者 七名 (一言PR)
- 中村 幹男② 農業自営 健康
- 岡 正文④ 行政書士
- 小林 正巳⑤ 山梨大非常勤講師
- 中込 武⑧ 農業自営
- 矢崎 涼子⑩ 農業自営

- 立中安芸子⑪ 山梨県職員
- (生活改善普及員)
- 小澤 泰之⑬ 農業自営
- (ブドウ一年生)

◆会議内容 支部長留任、事務局長に高坐一明⑨を遷任依頼し、若年層の活動参入を推進する。なお、五十周年記念行事には、支部長と立中会員の出席が決まる。

また、会議に続いて開いた懇親会は、立中、小澤両会員の歓迎と合わせ実施した。

鯉淵学園同窓会

「近畿のつどい」

近畿交流集会実行委員会(委員長 早田 仁① 和歌山県支部長)は、十一月十日(土)～十二日、京都市駅前のホテル「法華クラブ京都」を会場に「鯉淵学園同窓会近畿のつどい」を開催した。

当日は、近畿地域会員約七十名に、学園から六戸弘明学園長、本部からは、福丸博房会長及び岩持文彦事務局長を招いて、学園五十周年記念に相応しい大交流会となった。

詳細は、別掲「近畿のつどい」開催へ現地発信Vをご参照ください。

お知らせ

茨城県支部総会告示(案内)

一、日時 平成八年一月二十日(土) 二十一日

二、会場 湯泉荘 内原町三湯一〇五

三、議題

(1) 報告事項

ア 平成六・七年度事業報告

イ 平成六・七年度決算報告

「近畿のつどい」開催される!

六十七名が参加

昨年の秋以来、近畿二府四県の支部長を中心に検討してきた「鯉淵学園同窓会近畿のつどい」は、去る十一月十日(土)～十二日(日)に、六十七名の参加を得て京都市内で開催された。

この企画をたてた直後に、「阪神・淡路大震災」という大アクシデントに見舞われ、一時は開催そのものが危ぶまれたが、本年五月に再度の支部長会議で開催を確認、翌月には実行委員会(委員長 和歌山県支部長 早田 仁氏へ一期)を組織し、都合三回の企画検討を経て開催の運びとなった。

当初は、近畿二府四県の同窓会員数約二百五十名(通信教育修了者九十九名を含む)のうち、どれだけ参加が得られるかが最大の問題であったが、懸念していた参加人員も六十七名とほぼ目標に達し、更に「つどい」の当日には、六戸学園長、福丸同窓会長、岩持同窓会事務局長が、一週間前の学園記念事業の疲れも癒えぬところをご出席いただき、盛大に開催できたことは実行委員一同最大の喜びであった。

つどいは、先ず早田実行委員長の挨拶に続き、つどい開催に至る経過の報告、続く各府県ごとの支部活動の現状と、ユーモラスな出席者の自己紹介も手伝って、次第に和やかな雰囲気醸し出された。

- ウ 平成六・七年度監査報告
- エ その他
- (2) 審議事項
- ア 平成六・七年度事業及び決算並びに監査報告の承認について
- イ 平成八・九年度事業計画及び予算について
- ウ その他
- (3) 平成八・九年度役員選出について
- 四、負担金 五、〇〇〇円(会員一人)
- 但し、宿泊しない方は(懇親会まで参加の場合)三、〇〇〇円とする。
- また、平成六・七年度本部会費及び同支部会費未納者は、それぞれ納入することとする。
- 五、参加(出席)申込み期日
- 一月十日(水)までに、はがき又は電話により、同窓会事務局にご連絡ください。
- 〒三〇九一〇三
- 内原町鯉淵五九六五 鯉淵学園内 同窓会事務局
- (茨城県支部気付)
- ☎〇二九一二五九一二八一一
- (事務部教務係長・広瀬町子)

また、数人の代表者による学園の「思い出でばなし」、食糧難時代、女子寮のことなど、昔日の思い出はなしが披露され、五十年の歴史を象徴する回想が印象的であった。

一旦休憩の後、六戸学園長から「学園の現状と方向」と題して四十分間、入園生の動向、財政問題等について、大要分り易いお話があり、続いて福丸同窓会長の挨拶、岩持事務局長から五十年記念事業等の報告、特に募金への協力御礼と公財政確立のための会費完納要請等があった。

ここで、寮歌を斉唱し交流会第一部を閉じ、引き続き期別の交流会、懇親会が持たれたが、報告は割愛する。

なお、アンケートによれば、つどいは「大変楽しかった」が六六%、「まあまあ」が二六%、「二三年に一度の開催希望」が五七%、「記念事業に運動させて開催」が二四%で、今後の同窓会活動への新たな問題が提起されたように思う。

(京都 藤井文信)

第六期生 上和田 勉さん

サツマイモの養液栽培に

関する研究で「農学博士」に

上和田さんは、昭和二十六年三月に卒業、直ちに大阪府立大学にご勤務、生来の努力家で、大学では講師として環境調節工学と農業気象学を担当された。

上和田さんの学位論文は、食料生産を目的に、太陽エネルギー固定能力が高く、また栽培においては気象的、土壌的な悪条件に強く、安定的に多収穫が期待できるサツマイモを、従来慣行の蔓挿し栽培法の他の一法として養液栽培による技術開発を試みられた。すなわち、栽培箱の内部を養液層と気層の二層に分け、根は養液層に伸ばして栄養吸収を、その上部の気層で塊根を形成させるといふ栽培法で、この方法によって、サツマイモの養

あった。

液栽培技術を開発された。これは世界最初のサイマイモ養液栽培であり、一九九一年にはアメリカで行われた国際シンポジウム学会に招待講演をされたり、宇宙農場計画の栽培作物の一つにサツマイモが選択され、NASAに招待されるなど、その業績は、国際的にも高く評価されている。

上和田さんは先般、大阪府大を定年退職され、現在は和歌山県農業高等学校で、農業気象の講義を担当されている。ここに、改めてご研究の成果を称え、今後ますますのご健勝を祈念したい。

学園創立50周年記念事業募金集計報告

目標達成 七支部・十三卒期組
募金活動終局寸前の様相

「必ず一口・もう一口」運動推進に感謝

前回報告以降、九月から十一月十五日までの二カ月半の実績は、別記「応募者名簿」の通りで、一九一名(うち三一名は追加)の会員から、四百四拾六万貳千円の募金が寄せられ、併せて、一、六三六名(実人員)、参千壹百八拾七万五千円の結果であります。最低限の目安とした参千円突破のご支援に対し、深く感謝申し上げます。

卒期別では、当初から勢いに乗った高齢卒期組の頑張りが目立ち、若年組の奮起を啓発する中で、多くの会員を擁する第二十三期生会の善戦が目立ちます。募金活動は、十一月末日をもって終了しますが、口座は、整理期間として、暫時、開設されると思いますので、その間のご利用をご期待申し上げます。

支部分びに卒期別内訳は、別表の通りであります。

※名簿説明 敬称省略
分類方法は、応募口数及び金額別とする。○数字は卒期、括弧は通信同。

目標達成の七支部を、集計表順にみますと、東京、神奈川、京都、奈良、徳島、愛媛及び大分と並び、九〇%台の群馬、山梨、岐阜、三重及び大阪の五支部が続きます。

追加寄付は、当該期間の実績口数で分類し末尾括弧で累計口数を表示する。
例・九口寄付済者が一口追加の場合
◆一口 一万円

〔〇〇県〕① 鯉淵太郎(累計一〇口) 間違ひ、不審の点は、必ずご連絡ください。調査のうえ修正いたします。

〔〇〇県〕① 鯉淵太郎(累計一〇口) 間違ひ、不審の点は、必ずご連絡ください。調査のうえ修正いたします。

記念事業寄付応募者名簿

(平成七年九月〜同年十一月十五日 一九一名、一団体)

◆一〇〇口 一〇〇万円

(二名)

◆二〇口 二万円

(一名)

◆〇口 一〇万円

(三名)

〔神奈川県〕

③ 五明 達夫

〔北海道〕

① 佐藤 一春

〔北海道〕

③ 佐々木 正